

酒はもとより好きでは飲まぬ。逢はれぬつらさにやけで飲む、やめておくれよ自暴酒ばかり、弱いからだを持ちながら、若しも病氣になつたなら、醫者よ薬氣を揉んで、後の始末は誰がする。ドンドン。

向ふ下總葛飾郡、こちらは武藏の豊島郡間を流る、その大川の、水は時々濁るじやないか、だれがつけたかすみ田川。

奈良丸くづし

笹やさゝさゝやさゝ、笹はいらぬか煤竹を、大高源吾は橋の上、あしたまたる、寶船。

米山甚句

風が持てくる二階の端唄、「燭暗數行虞氏涙、夜深四面楚歌聲」思ひある身のサ、胸に釘。

猫じや猫じや節

猫じや猫じやとおつしやいますが、猫が下駄はいてしぼり浴衣でくるものか。オツチヨコチヨイノチヨイ。

梅が枝

梅が枝の手水鉢、たたいてお金が出るならば、若しもお金が出た時にや、その時きや身受を、それたのむ。

大津繪節

オーイ／＼おやお殿、その金こつちへかしてくれ、イエ／＼金ではござんせん、娘がしてくれた用

意のにぎり飯、ドレ／＼お先へ参じませう。ヤレ／＼しぶといおやちめど、ぬきはなし何の苦もなく一わぐり、命と金とのおんまいわかれの二つ玉。

三、舞 樂

里神樂 鎮守祭禮に於て各地に行はれしが、漸次廢するに至れり。

手踊 怡屋踊 盆踊等間々これを見る。

芝居 青年等の娛樂として、祭禮又は祝賀會等の餘興としてなすものあり。

第九節 傳 説

小鷹神社

小鷹神社は長尾村瀧口にあり。一に下立松原神社といふ。神武帝元年の創建に係り、天日鷲命を祀る。本社は安房忌部の元祖たる社傳を語ると共に、一は房州風俗の一部を窺ふに足る。神武天皇元年阿波の忌部の祖天日鷲命の御孫由布津主命と、忌部の遠祖天太玉命の御孫天富命との兩神、勅を蒙りて東國に下向し、安房の南方に上陸し給へり。やがて天富命は當國の經營を由布津主命に托して西還せられしかば、由布津主命獨り此の土に居住して、麻穀を植うることを民に教へられたり。由布津主命蒙茸なる當國を開拓せんとせられしに、猪鹿の害甚だしきを聞こし召し、先づ御供に従ふ諸神を狩人として、天梳弓・天羽々矢を以て盡くこれを狩獲せられしを以て、民その業に安ずるを得たりといふ。現今鹿倉山・猪鹿塚といふは即ち其の所なりといふ。毎年十一月二十六日より三日間例年の行事とし